

2015年2月16日掲載

むし歯の原因と症状

早めの処置が大切

むし歯の原因は歯垢（しこう）です。歯垢とは口の中に残った食べかすと細菌が混じり合っできる細菌のかたまりで、食べかすに含まれる糖分をエサとして増殖し、酸を産出し歯を溶していきます。

むし歯の症状は、進行度により5つに分類されています。

初期のエナメル質の表面が溶かされた状態（C0）と中期のエナメル質の内部まで溶かされて穴が空いている状態（C1）は、痛みを感じることはありません。そのためつい放置しがちですが、初期の段階（C0）であれば唾液の力で修復（再石灰化）が行われ、元の健康な歯の状態に戻ります。しかし、毎日の食生活が乱れていたり、歯のケアを怠っていたりすると、歯垢が酸を産出しやすい環境となり、再石灰化が間に合わずむし歯が悪化していきます。

後期前半は象牙質まで溶かされ進行した状態（C2）で、冷たいものや熱いものがしみる場合があります。

後期後半はむし歯が歯の歯髄にまで進行した状態（C3）で、細菌により歯髄が炎症（歯髄炎）をおこし激しい痛みを伴います。

末期は歯の根だけを残し、歯の上部が崩壊している状態（C4）です。神経組織は壊死（えし）し痛みはありませんが、細菌感染が起こると顎の骨まで到達し、膿（うみ）がたまり痛みを伴う場合もあります。また細菌が血管から体の中に入り込み他の病気を引き起こす可能性もあります。

むし歯は早めの処置が大切です。すぐに歯科医院を受診するか、定期健診を受けるようにしましょう。